

2023年度 エコアクション21 環境経営レポート

対象期間：2023 年 9 月～2024 年 8 月



有限会社岩崎配管工事店

2024 年 11 月 30 日作成

も く じ

1	組織の概要	1
2	対象範囲	2
3	環境経営方針	3
4	環境経営目標	4
5	環境経営計画	5
6	実施体制	7
7	環境経営目標の実績・取組結果とその評価、 及び次年度の環境経営目標	8
8	環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 及び次年度の環境経営計画	11
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	11
10	代表者による全体の評価と見直し・指示 当社の工法紹介	12 13

1 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者

有限会社岩崎配管工事店 代表取締役 岩崎勇介

(2) 所在地

本 社 〒953-0034 新潟市西蒲区葉萱場 64 番地
TEL : 0256-72-4479 / FAX : 0256-72-4481
駐 車 場 〒953-0034 新潟市西蒲区葉萱場 55 番地 1 外
倉 庫 〒953-0041 新潟市西蒲区巻甲 1663 番地 外
資材置場 〒953-0016 新潟市西蒲区松山 76 番 外

(3) 環境管理責任者 岩崎勇介 E-mail : ihk@rose.ocn.ne.jp
事務局担当者 田中紀子 同上

(4) 事業の概要

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、管工事業、
鋼構造物工事業、機械器具設置工事業）
産業廃棄物収集運搬業

(5) 事業規模

活 動 規 模	単 位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
工事等の件数	件	159	136	206	654
売 上 高	百万円	163	197	169	173
従 業 員 数	人	12	11	11	11
事務所床面積	m ²	70	70	70	70
倉庫床面積	m ²	854	854	854	854
資機材置場	m ²	3,041	3,041	3,041	3,041
産廃収集運搬量	t	0	120	0	6

(備考) 1 工事件数、売上高、産廃収集運搬量は、9 月から翌年 8 月における値

2 従業員、床面積は、会計年度末である翌年 8 月 31 日における値

(6) 法人設立年月日 昭和 45 年 9 月 4 日

(7) 資本金 2,000 万円

(8) 許可内容等

ア 建設業

(イ) 一般建設業の許可

許可区分 管工事業、鋼構造物工事業、機械器具設置工事業、解体工事業
許可番号 新潟県知事許可（特－2）第 5314 号
許可年月日 令和 2 年 8 月 26 日
許可有効期限 令和 7 年 8 月 25 日

(ロ) 特定建設業の許可

許可区分 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業
許可番号 新潟県知事許可（特－2）第 5314 号
許可年月日 令和 2 年 8 月 26 日
許可有効期限 令和 7 年 8 月 25 日

(ウ) 建設業の用に供する機械

建設機械	台数	規格品質
バックホウ	13 台	超低騒音型(6)+低騒音型(7)／排ガス対策型(12)+対象外(1)
ショベル	2 台	低騒音型(2)／排ガス対策型(2)

イ 産業廃棄物収集運搬業

(ア) 許可内容

許可区分 新潟県産業廃棄物収集運搬業（積替え保管を除く。）
許可番号 新潟県知事許可 01508104885
許可年月日 令和 5 年 11 月 13 日
許可有効期限 令和 10 年 8 月 12 日
事業の範囲 廃プラスチック類、紙くず、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、がれき類（石綿産業廃棄物を含む。）、汚泥、ゴムくず、金属くず

(イ) 収集運搬業の用に供する施設

運搬車両の種類	台数	運搬品目
2 t ダンプ	6 台	廃アスファルト、廃コンクリート等 廃プラスチック、がれき類、金属くず
3 t ダンプ	5 台	
10 t ダンプ	1 台	
2.5tトラック	1 台	
4tトラック	3 台	
10tトラック	1 台	

2 対象範囲

認証・登録範囲は、有限会社岩崎配管工事店の全組織・全活動
レポートの対象期間及び発行日は、表紙に記載のとおり

有限会社岩崎配管工事店 環境経営方針

基本理念

当社は、自然に恵まれた穀倉地帯、新潟平野において建設業を営んでいます。

地球温暖化防止が叫ばれている中、当社としても、建設工事の実施に伴い環境に負荷を与えていることを認識するとともに、以下の基本方針に基づき、全社を挙げて温室効果ガスの排出削減をはじめとする環境経営の継続的な改善を図っていきます。

基本方針

- エネルギーの使用を減らし、二酸化炭素の排出量を削減します。
- 一般廃棄物の排出を抑制します。
- 建設工事において再生資材の使用に努めます。
- 工事現場における環境対策を進めます。
- 水道水の使用を減らし、水資源を保全します。
- 建設副産物の再利用・再資源化を図ります。

また、環境関連法規などを遵守するとともに、環境経営方針は全従業員に周知します。

制 定：2010年7月1日
改 正：2022年9月1日
有限会社 岩崎配管工事店

代表取締役 岩崎勇介

4 環境経営目標

(1) 環境経営目標

2022~2024 年度の 3 か年目標を策定して取り組んでいます。

環境経営目標

(年度：当年 9 月～翌年 8 月)

項目	単位	基準年度	単年度目標値			
		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	
①電力使用量の削減	kWh	16,553	16,470 (-0.5%)	16,388 (-1.0%)	16,305 (-1.5%)	
②軽油使用量の削減	ℓ	15,931	15,851 (-0.5%)	15,772 (-1.0%)	15,692 (-1.5%)	
③ガソリン使用量の削減	ℓ	3,672	3,654 (-0.5%)	3,635 (-1.0%)	3,617 (-1.5%)	
④都市ガス使用量の削減	m ³	3,074	3,059 (-0.5%)	3,043 (-1.0%)	3,028 (-1.5%)	
⑤二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	63,826	63,507 (-0.5%)	63,187 (-1.0%)	62,868 (-1.5%)	
⑥一般廃棄物排出量の削減	kg	330	329 (-0.3%)	328 (-0.6%)	327 (-0.9%)	
⑦再生資材使用の推進	再生資材%	60.9	61.1 (+0.3%)	61.3 (+0.6%)	61.4 (+0.9%)	
⑧建設現場の環境対策の推進	平均評価点	4.9	4.9	4.9	4.9	
⑨上水使用量の削減	m ³	92	91.7 (-0.3%)	91.4 (-0.6%)	91.1 (-0.9%)	
⑩産業廃棄物再資源化の推進	再資源化%	100 (1,454t)	95	95	95	

注 1. 購入電力の CO₂ 排出係数は 2020 年度の東北電力㈱の調整後排出係数 0.457kg-CO₂/kWh を使用した。

- 一般廃棄物排出量は、事務所における可燃一般廃棄物の排出量を示す。
- 産業廃棄物の再資源化の対象には、石綿含有産業廃棄物は含まない。
- 建設現場の環境対策の推進は、これに関する環境活動計画 2 項目の平均評価点であり、平均評価点は、5(十分できた)、4(概ねできた)、3(そこそこできた)、2(あまりできなかった)、1(ほとんどできなかった)の 5 段階評価とし、四半期ごとの評価結果を年間平均した値である。
- PRTR 制度対象物質は使用していないため、化学物質の環境経営目標は定めていない。

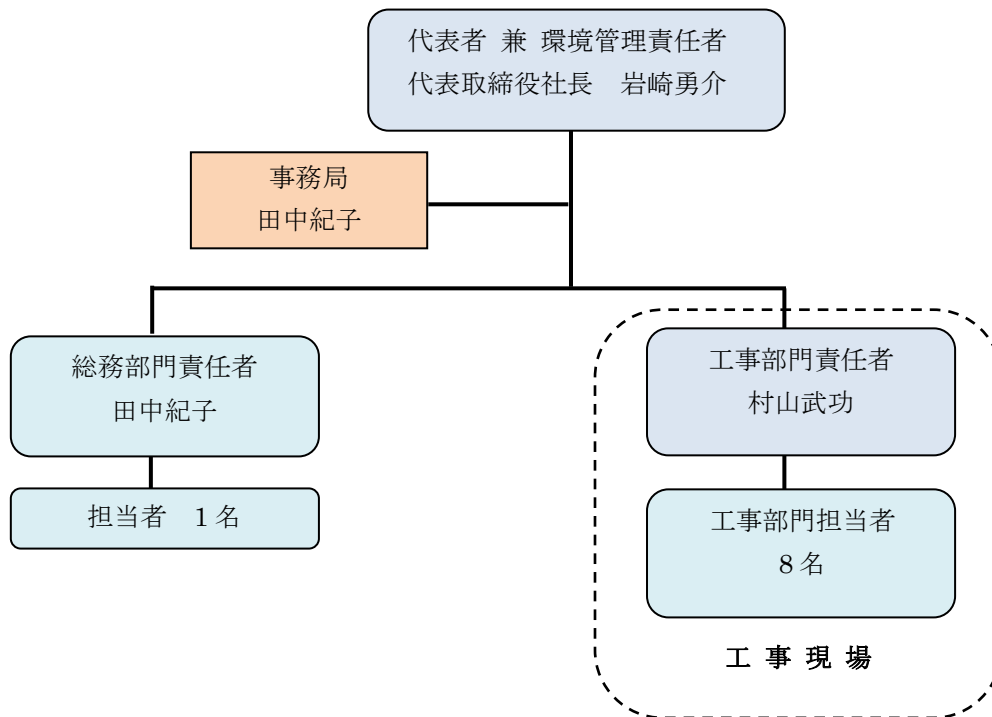
5 環境経営計画

環境経営目標		環境経営計画	評価点		
			事務所	現場	
⑤二酸化炭素排出量の削減	①電気使用量の削減	昼休み・休憩時は消灯する	5.0		
		未使用の部屋は消灯する	5.0		
		パソコン等は、2 時間以上離席時は電源を切る	5.0		
		パソコン等は、退社時は電源を切る	5.0		
		パソコン等は、省エネモードに設定する	5.0		
		電気ポットは、不使用時は電源を切る	5.0		
		照明器具は定期的に清掃する	5.0		
		節電の啓発ステッカーを掲示する	4.8		
		照明器具は、LED に切り替える【更新時に○】	5.0		
		OA 機器は、省エネ型を導入する【導入時に○】	5.0		
	①④化石燃料使用量の削減	暖房室温 20℃、冷房室温 28℃を点検する【空調時】	5.0		
		未使用の部屋の空調は停止する	5.0		
		退社時・外出時は空調を早めに切る	4.8		
		空調室外機の周囲に物を置かない	5.0		
		空調室内機吹出し口に物をおかない	5.0		
		空調時フィルターは、定期的に清掃する【空調時】	5.0		
		自然の風を取り入れて冷房を節約する【夏季に評価】	5.0		
		冬はマフラー、ストールで体温調節する【冬季に評価】	5.0		
		ガス給湯器の設定温度は適正に	5.0		
		計画性の向上、作業効率の向上、無駄の排除の取組を実施する		5.0	
	②③エコ安全運転の推進	自動車	①急発進・急加速・急ブレーキをしない	5.0	5.0
			②定速走行する	5.0	5.0
			③減速は早めに	5.0	5.0
			④カーエアコンは控えめに	5.0	5.0
			⑤アイドリングストップする	5.0	5.0
			⑥エンジンを駆けたら早めに出発する	5.0	5.0
			⑦効率的・安全なルートを通る	5.0	5.0
			⑧タイヤ空気圧を確認する	5.0	5.0
			⑨不要な荷物は積まない	5.0	5.0
			⑩迷惑駐車で渋滞させない	5.0	5.0
自動車の日常点検を励行する			5.0	5.0	
重機		①過負荷となる操作をしない		5.0	
		②エンジン回転数は適切に		5.0	
		③アイドリングストップする		5.0	
		重機の日常点検を励行する		5.0	
共通		エコ安全運転の啓発ポスターを掲示する	5.0		
		エコ安全運転の教育訓練を実施する	5.0		

環境経営目標	環境経営計画	評価点	
		事務所	現場
⑥一般廃棄物排出量の削減	印刷・コピーは、必要枚数とする	5.0	
	工事関係書類は、電子化する	4.3	
	両面印刷・割付印刷に努める	5.0	
	コピー機は、使用后リセットしミスコピーを減らす	5.0	
	パソコンのプレビューでミスプリントを減らす	5.0	
	片面使用コピー紙は、裏紙使用に努める	5.0	
	使用済み封筒は、社内再利用に努める	5.0	
	文具類は、最後まで使い切る	5.0	
	無駄な商品の購入は控える	5.0	
	トナーカートリッジは、リサイクルに回す	5.0	
	分別を徹底して、再資源化を図る	5.0	
⑦再生資材使用の推進	砕石等は、再生資材の使用に努める。		4.3
	建設発生土は、埋め戻しや場内利用に努める。		4.3
⑧建設現場の環境対策の推進	重機は、排ガス対策、低騒音機器を使用する		5.0
	建設現場の片づけ・清掃を励行する		5.0
	土砂・汚水の流出防止等、自然環境の保全に努める		5.0
	現場における地域の環境への貢献の実施に努める		5.0
⑨上水使用量の削減	水道は出し放しにしない	5.0	5.0
	水道の水量・水圧は適正に保つ	5.0	5.0
	ホース先端に手元ストッパーを取り付ける	4.0	
	蛇口には適宜節水コマを取り付ける	4.0	
	水道メータのパイロットで水漏れ点検をする【3か月毎】	5.0	
	トイレ洗浄水は節水に努める	5.0	
	節水の啓発ステッカーを掲示する	5.0	
⑩産業廃棄物の再資源化の推進	端材等の建設廃棄物の発生抑制・減量化に努める		5.0
	建設廃棄物・建設発生土は分別して再利用・再資源化に努める		5.0
	不適合品の削減や施工不良の削減により廃棄物の削減を図る		5.0

備考 評価点は、5(優れている)、4(やや優れている)、3(良好である)、2(やや良好である)、1(普通である)の5段階評価とし、四半期ごとの評価結果を年間平均した値

6 実施体制



総従業員数 11 名
(2024 年 8 月 31 日現在)

7 環境経営目標の実績・取組結果とその評価、及び次年度の環境目標

(1) 環境負荷の実績

項 目		単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	67,104	63,826	54,588	43,257
内 訳	購入電力	kg-CO ₂	9,396	7,565	7,756	6,173
	化石燃料	kg-CO ₂	57,708	56,261	46,832	37,084
上水使用量		m ³	133	92	103	97
産業廃棄物排出量		t	912	1,067	853	638

- 注) 1. 各年度とも対象期間は、9月から翌年8月である。
 2. 購入電力のCO₂排出係数は、2019年度～2020年度は2018年度の東北電力㈱の調整後排出係数0.528kg-CO₂を使用した。2021年度～2023年度は2020年度の0.457 kg-CO₂/kWhを用いた。
 3. CO₂排出量の化石燃料は、軽油、ガソリン及び都市ガスを対象とした。

(2) 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

項目	単 位	基準年度	2023 年度		
		2021 年度	目標値 (対基準年増減)	実績値 (対基準年増減)	達成状況
①電力使用量の削減	kWh	16,553	16,388 (-1.0%)	13,508 (-18.4%)	○
②軽油使用量の削減	ℓ	15,931	15,772 (-1.0%)	8,881 (-44.3%)	○
③ガソリン使用量の削減	ℓ	3,672	3,635 (-1.0%)	3,331 (-9.3%)	○
④都市ガス使用量の削減	m ³	3,074	3,043 (-1.0%)	2,983 (-3.0%)	○
⑤二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	63,826	63,187 (-1.0%)	43,257 (-32.2%)	○
⑥一般廃棄物排出量の削減	kg	330	328 (-0.6%)	340 (+3.0%)	×
⑦再生資材使用の推進	再生資材%	60.9	61.2 (+0.6%)	66.4 (+5.5%)	○
⑧建設現場の環境対策の推進	平均評価点	4.9	4.9	5.0	○
⑨上水使用量の削減	m ³	92	91.4 (-0.6%)	97.0 (+12.0%)	×
⑩産業廃棄物再資源化の推進	再資源化%	100 (1,454t)	95	99.9	○

注) 「CO₂排出量の削減」は、電力使用量、軽油、ガソリン及び都市ガス使用量を対象としている。

① 電力使用量の削減

2023年度の電力使用量は13,508kwhで、基準年度の2021年より18.4%減少し、目標を大きく達成しました。電力の大部分(約99%)は事務所での使用によるものですが、今年度は作業員の事務作業の減少や2024年3月末にGHPを省エネタイプの機器に更新したことが、電力使用量が減少した要因と考えられます。

② 軽油使用量の削減

2023年度の軽油使用量は8,881ℓで、基準年度2021年の15,931ℓから44.3%の減少となり、目標を大きく達成しました。軽油使用量の減少の要因としては、今年度は西蒲区域内の工事が多く、また少規模の工

事が多かったことから車両や重機での使用が少なかったこと、さらに今年度は環境経営計画に「計画性の向上、作業効率の向上、無駄の排除の取組を実施する」と掲げて取組んだことなどが要因と考えられます。

③ ガソリン使用量の削減

2023 年度のガソリン使用量は 3,331ℓ で、基準年度 2021 年度の 3,672ℓ から約 9.3%減少し、目標を達成しました。その要因としては、今年度は西蒲区域内の工事が多く、役所など発注元との行き来が少なかったことも要因と考えられます。

④ 都市ガス使用量

2023 年度の都市ガス使用量は 2,983 m³で、基準年度の 2021 年度の 3,074 m³から約 3.0%減少しました。2024 年 3 月末に冷暖房用の GHP を省エネタイプの機器に更新したことも要因のひとつと考えられますが、今後の使用量の推移を見ていきたいと考えています。

⑤ 二酸化炭素排出量の削減

当社の二酸化炭素排出量の多くが建設現場の軽油の使用によるものですが、上記のとおり軽油使用量が大きく減少し、さらに電気使用量、ガソリン使用量、都市ガス使用量も減少したため、二酸化炭素排出量は基準年の 2021 年度に比べて 32.2%減少し、大きく目標を達成しました。

⑥ 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量については、2023 年度は 340kg で、通常の一般廃棄物の排出でしたが、基準年度の実績を約 3%超過しました。

⑦ 再生資材使用の推進

2023 年度は、砕石使用量 628 t のうち再生品は 417 t (66.4%) を使用しました。使用する原材料は道路管理者等の発注者の指示により決まるため変動がありますが、今年度は目標 (61.2%) を達成しました。

⑧ 建設現場の環境対策の推進

低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械を導入するとともに、工事現場の清掃清潔の保持及び環境保全が浸透してきており、平均評価点は 5.0 を継続でき目標を達成しました。

⑨ 上水使用量の削減

上水使用量は、目標値 91.4m³に対して 97m³となり、目標を超過しました。増加の理由としては GHP の冷却用水の使用が増加したことが考えられます。

⑩ 産業廃棄物の再資源化の推進

建設リサイクル法の趣旨に沿って、工事現場から出るがれき類などの産業廃棄物の全量再資源化を目標として励行しています。実績は 99.9%であり、目標を達成しました。

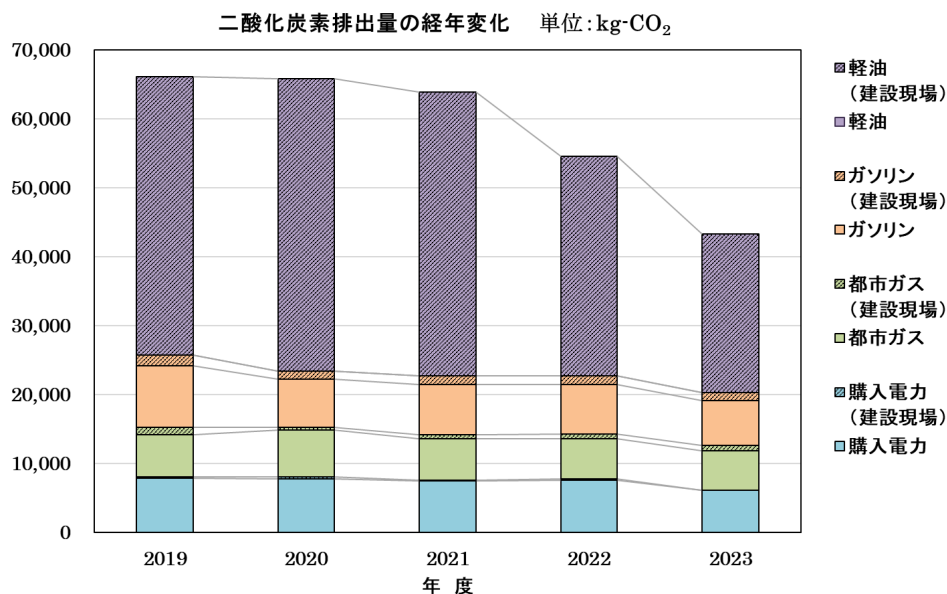
(3) 次年度の環境経営目標

2023 年度は中期目標の 2 年目でしたが、最終年となる 2024 年度も引き続きこの中期目標に基づいて取組を進めていくこととします。

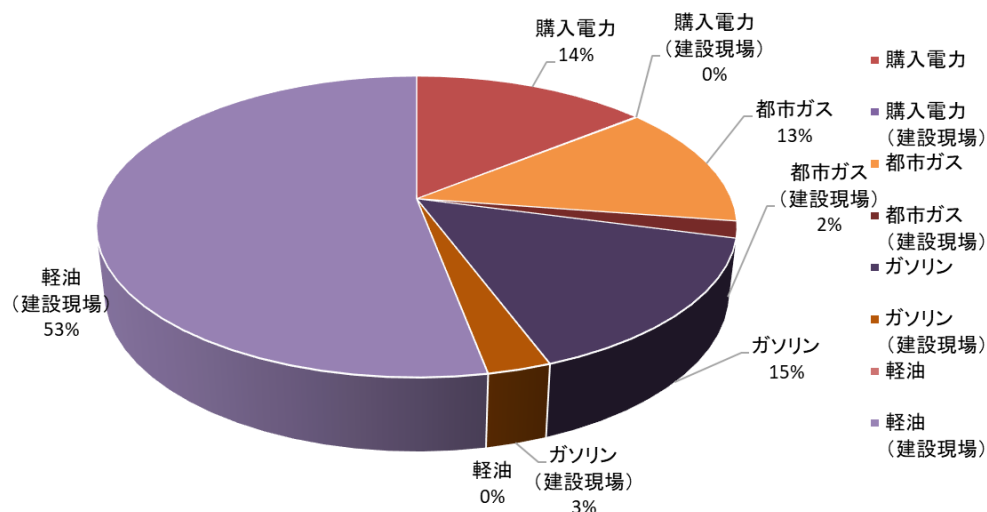
【参考】二酸化炭素排出量の経年変化と2023年度のエネルギー別の二酸化炭素排出量

環境経営目標の代表的な項目である電力・化石燃料の使用による二酸化炭素排出量について、直近5か年の経年変化を示しました。経年的にみると2019年度、2020年度は同程度でしたが、2021年度、2022年度、さらに2023年度と大きく減少しました。2022年度及び2023年度は大きな工事が減り、また西蒲地域内の工事が多かったことから、特に軽油使用量が減少したためと考えられます。

また、二酸化炭素排出量をエネルギー別にみると2023年度は、軽油が53%、ガソリンが18%、電力が14%、都市ガスが13%などとなっています。



2023年度のエネルギー別の二酸化炭素排出量(割合)



注) 「二酸化炭素排出量」の環境経営目標は、電力、軽油、ガソリン、都市ガスの使用量を対象としている。

8 環境経営計画の実績・取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画

(1) 環境経営計画の実績・取組結果とその評価

2023年度は中期目標の2年目でした。なお、今年度は環境経営計画に作業現場での取組を考慮した項目を追加し取組を進めましたが、いずれの取組も概ね実施されました。

(2) 次年度の環境経営計画

2024年度は中期目標の3年目の最終年になることから、引き続きこの環境経営計画に基づき取組を進めることとします。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

当事業場に適用される環境関連法規について遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり違反なく全ての関係法規を遵守していることを確認しました。

また、関係行政当局よりの違反等の指摘、並びに、住民等からの当社への苦情等は過去3年間なく、訴訟についてもありません。

環 境 関 連 法 規	要 求 事 項	点検結果
家電リサイクル法	・ 家電廃棄物を適切に業者に渡し、料金を支払う等	遵守
小型家電リサイクル法	・ 小型家電の排出に当たっては分別し、市町村又は適切に再資源化しうる認定業者等に引き渡す。	遵守
建設リサイクル法	・ 建設資材廃棄物の発生抑制、分別・再資源化費用が低減される設計、工法等の工夫 ・ 再資源化建設資材の使用に努める ・ 特定建設資材を含む一定規模以上の工事での分別解体義務	遵守
自動車リサイクル法	・ 使用自動車の長期間使用、リサイクル費用の負担等	遵守
フロン排出抑制法	・ 業務用エアコンの簡易点検	遵守
廃棄物処理法	・ 産業廃棄物収集運搬業の許可、収集・運搬の基準の遵守、委託基準の遵守、マニフェスト管理・報告等	遵守
新潟市産業廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	・ 処分委託事業者の稼働状況等の確認・記録	遵守
石綿障害予防規則	・ 水道管工事で発見された石綿セメント管の撤去	遵守

10 代表者による全体の評価と見直し・指示

項目	点 検 項 目	見直しの必要性	指 示 の 内 容
見直し・指示事項	環境経営方針	☐ 有 ☒ 無	2022 年に環境経営方針を改定したところであり、引き続きこの方針に基づき取組を進める。
	環境経営目標	☐ 有 ☒ 無	2024 年度は 3 か年の中期目標の最終年度であり、引き続きこの目標に基づき取組を進める。
	環境経営計画	☐ 有 ☒ 無	2023 年度に環境経営計画に作業現場での取組を考慮した項目を追加した。引き続きこの計画で取組を進める。
	実施体制	☐ 有 ☒ 無	特に変更は行わず、現在の実施体制で取組を進める。
	その他	☐ 有 ☒ 無	その他特に変更はなく、引き続き取組を進める。
全体の評価	今年度（2023 年度）は基準年の 2021 年度と比較して軽油使用量が大きく減少し、さらに電気使用量、ガソリン使用量、都市ガス使用量も減少したため、二酸化炭素排出量は基準年の 2021 年度に比べて大きく減少した。 その要因として、大きい工事の減少し西蒲地域の近隣の小さい工事が増加したこと、また冷暖房用の GHP の更新なども考えられるが、電力や燃料価格が上昇するなど厳しい経営状況の中で、次年度(2024 年度)も売上の増加を目指しながら、引きつづき建設現場を含めて省エネ・省資源及び環境保全の取組を一層進めていくこととする。		

当社の工法紹介

当社は、バースティング工法協会会員として、小口径管推進工法である「誘導式水平ドリル工法 (Horizontal Directional Drilling)」を得意分野としています。

この工法は、地下に掘削した穴に管を通して、開削せずに管路を繋げる非開削工法で、次のような特徴をもっています。

- 推進速度が速く、工期が短縮されます。
- 地上作業のため労働環境が良く、安全性に優れています。
- 工事の占有面積を少なくできます。
- 騒音・振動・粉塵等の発生が抑制されます。
- 開削しないため、交通や市民生活への影響が押さえられます。



グリンドリル推進機



当社のグリンドリル搭載車
(油圧ユニット、ベントナイトミキシング装置)